

開校 150 年記念コラム（第 6 回）

赤江小の歴史には、戦争により重く苦しい中で学習した時代もありました。「赤江教育百年誌」には、「僕たちは修学旅行も無く、卒業証書も粗末な紙であった。小学校時代の思い出は暗いものばかり」という文面も見られます。今回は、「赤江教育百年誌」より太平洋戦争中の当時の赤江小の様子を紹介します。

「思い出」三島俊夫さん（昭和 21 年卒業）

十九年頃になると、B29 の空襲も日本各地で聞かれるようになり「非常時」や「国民精神動員」では追いつかなくなり

「一億玉砕」が叫ばれ「本土決戦」に備えて竹槍訓練が行われた。敵機はそれをあざわらうかのように、三柳飛行場や日立安来工場も空襲の対象とした。空襲警報が発せられると下校するのが通常であった。赤江には直接爆弾は投下されたことはなかったと思うが、高射砲弾の破片がものすごいなりに田んぼに落ち、子ども心に恐ろしかったことを記憶している。夜も縄ないなどがあり、ふかしいもなどを提供された。また、論田海岸で塩作りをした。今も前庭の松の木に松ヤニとりの跡が残っている。

「思い出」山崎 要さん（昭和 23 年卒）

夏の桑の皮はぎ、手にまめを作り苦しかった。秋の落ち穂拾い、出征兵士留守家庭への集団手伝い、帰りには大根付けを一本ずつ貫いまるかじりしながら帰った。すき腹に実に美味しかった。冬の味噌汁給食。日課のようにとったイナゴの入ったやつだ。少しくさくはじめは戸惑ったが冷え切った腹にはやはりおいしかった。足の踏み場も惜しんで一面のサツマ芋畑となった校庭。窓ガラス 1 枚残さずにたて横に紙を張り、天井は打ち抜かれ、廊下には竹やりが立ち並び、椅子には防空ずきんがかかり、たびたび防空演習があった。



ひとみ輝き
笑顔と笑い声がこだまする
赤江小学校



毎年、6 年生は修学旅行に合わせて「平和学習」に取り組んでいます。今年も、修学旅行で、県内の戦争遺構を見学したり、語り部さんからお話をお聞きしたりする予定です。

保護者の皆様から、「赤江小の思い出」を募集したところ、多数お寄せいただきました。とても感謝しております。次回から、随時掲載させていただきます。

学校だより「ちまちだ」をカラーで
～ホームページに載せています～

